

子どもたち・ボランティアがお客さんにならない活動を

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	東中学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：50人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他[ボランティア等研修]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- 第1回(4/23) CS 立ち上げ初年度。短期目標と長期目標を掲げ、3ヶ年計画でCSに取り組む
 目標の共有(子ども、保護者、地域、学校(教員))の確認 … 「どんな子ども」「どんな学校」を目指すのか
 第2回(6/28) 学校評価書の内容検討 … 評価項目の検討(子どもが主体性をもつための項目) → 指導と評価の一体化
 第3回(7/31) 「思いを共有する第一歩」とする生徒会本部役員とCS委員との対話
 意見交流テーマ…「どのような先生になりたいか」「どのような学校がいいか」「先生や学校、親、地域に望むこと」
 第4回(11/8) 「地域・学校として、どのような子どもに育てるか、また、子ども自身がどのような大人になりたいかを目指して」
 「地域とともにある東中を目指して」… ビジョンの共有 → CSへの期待につながる
 ○当事者意識「子ども、保護者、地域、学校(教員)」 ○主体性(子どもの) … 磨く場、身に付ける場の設定
 第5回(2/14) CS 教員研修「教員としての当事者意識の醸成」 CS 1年目の総括 学校評価の総括 2年目に向けて

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- (1)夏の清掃ボランティア活動(9/4) … 地域、保護者、生徒、教員による協働活動
 (2)読み聞かせ(朝読) … 図書ボランティアによる2週間に4クラスずつ程度
 (3)図書室の新刊整理 … 図書ボランティアによる定例作業
 (4)図書室の開館支援 … 図書委員会とボランティアが協働して開館
 (5)1年生フィールドワーク(郷土学習) … 安全見守り
 (6)給食準備、片付け見守りサポート … 特別支援学級を中心にサポート
 (7)特別支援学級の野外活動支援 … 活動場所(彦根プレーパーク)の提供と活動
 (火起こし、焼き芋、自然体験)支援
 (8)日本語支援 … 地域ボランティアによる学習・通訳支援



【彦根プレーパークでの野外活動の様子】

■ 実施に当たっての工夫

これまで、さまざまな学校支援を実施いただいたが、ボランティアが支援に入ると、教員は助かって、子どもが、時には教員までもが受け身になってしまうことがあり、中学校を支援することの難しさを感じていただいた。特に上記④では、あくまで子どもたちの自治的活動の上での支援であることを確認しながら今年度、支援をした。そのため、委員長・副委員長にはボランティアの月当番表を渡して情報共有も行った。

- ・ボランティア間では、連絡調整を図るため、グループLINEを使って情報共有をしっかりと行った。
- ・上記(5)では、地域学校協働活動推進員が教員の会議に出席する等、打合せを丁寧に行うこともした。
- ・年度当初に、チラシ「地域学校協働本部だより」の発行による活動の保護者周知も行った。

■ 事業の成果

地域学校協働活動推進員のコーディネート…活動の全体が見えるようになり、適切かつ有効な支援につながっている。

- 子どもたちへの効果 … 社会性の向上(異年齢とのコミュニケーションの機会)
 地域への愛着 多様な体験や学びの場の提供
 自己肯定感の向上(地域の人々からの支援や励まし)
 学校への効果 … 学校運営の活性化 地域との信頼関係の構築
 地域への効果 … 地域との絆の強化 地域の活性化



【学校運営協議会での生徒会本部役員との対話の様子】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

どの活動においても、同じ活動の支援が毎年続くと、支援があっても当たり前のようになりがちだが、ノウハウを積み上げながらも、前年の活動にとらわれず、新たに始めるつもりで取り組めると良い。

彦根市では、本年度から全小中学校がコミュニティ・スクールとなった。重要なのは、学校と地域が何を目標として協働するかであるため、話し合いとともに共通した視点を育む研修の場を確保する必要がある。

■ その他

- ・CS新聞の発行(教員向け) … 7/30、8/22 2回の発行「当事者意識を育てる」「子どもの主体性を育む」

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(担任・学年主任・担当教員(委員会)・読書活動支援員)

報告書記入者(教頭)

「城東ちょこっとボランティア」さんとともに創る城東っ子の主体的な学び

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	城東小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：75人 ☒ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☒ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☒ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☐ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☒ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☒ 地域行事への参加 ☒ ボランティア・体験活動 ☒ 郷土学習 ☐ その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・本校の児童の健康状況について養護教諭から話題提供をし、それを踏まえて、児童の普段の様子について交流した。良い点では、挨拶をよくする、まじめに取り組むなどが挙げられた。また、健康診断の結果に関わって、スマホやゲームの時間が長いことが課題として挙げられ、学校だけでなく家庭と連携したり、研修会などで啓発したりするとよいのではないかという意見が出た。
- ・第3回には、本校の児童と地域の良さと課題について付箋に再度書き出し、分類したり、整理したりすることで、本校の強み、弱みを共有した。これらをもとに、今後は、さらにどんな取組ができるか話し合っていきたい。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- ・高学年家庭科でのミシンの学習サポート
- ・校外学習(下学年の町探検等)の引率サポート
- ・4年生「やまのこ」野外活動サポート
- ・3年生ポスター作りについてのゲストティーチャー
- ・特別支援学級校外学習(さつまいも苗植え・いもほり)引率・活動サポート
- ・体力テストでの測定等の補助



【 芹川探検の安全見守り 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域学校協働活動推進員が、SNS でボランティア登録をしたメンバーのグループを作り、連絡ソールとして活用した。

■ 事業の成果

- ・総合的な学習の時間や校外での社会科学習の際、安全ボランティアとして引率したり、グループ別に行動する際に1グループに必ず1人は付き添って活動を支援したりすることができ、安全面だけでなく、児童が自信を持って活動に取り組むことができた。
- ・地域の店や人的資源をたくさん紹介していただき、学校とつながってくださることで、新たな学習展開を工夫することができた。
- ・高学年のミシン学習では、担任1人では見とれないところを、グループに1人ずつボランティアがついてくださったおかげで、スムーズに進めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・「城東教育を語る会(学校運営協議会)」で熟議を重ねることで、地域や学校の思いを互いに共有し、同じ方向を目指して教育活動を進めていけると感じている。
- ・地域学校協働活動推進員が熱心に働きかけてくださるおかげで、地域連携担当者以外の担任と推進員との関係が深まり、担任からも積極的に相談をする姿がたくさん見られる。一方で、校内のとりまとめをする地域学校協働活動推進員が知らないところで計画が進むこともあり、学校としていつ、どのような支援をしてもらうのか、間際に知ることもあった。安全面やほかの行事との時間の調整などこともあるので、しっかりと共有はしておきたいところである。



【 特別支援学級のさつまいも栽培 】

■ その他

学校運営協議会委員は、地域の青少年育成協議会やスポーツ振興会、PTA などいろいろな団体の関係者であることから、児童の学習に有効な地域の資源や人的資源、取組を提案して下さり、とても力強く思う。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☐校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☒その他(学級担任)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

学校と佐和山応援隊の双方向連携で、佐和山っ子の確かな育ちを

彦根市	活動名:東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校	学校運営協議会 : ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成 20 年度 地域学校協働活動推進員等数:2 人 ボランティア登録数:43 人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他[長期休業前の印刷物の作成]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

本校は、今年度から学校運営協議会を設置している。運営協議会では、地域学校協働活動において、それぞれの立場で「できることをできるときに」というスタンスで取り組んでいくことを共通認識している。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

・家庭教育支援

学校に来にくい児童、不登校の児童等の学習支援や保護者の相談を担っていただいている。担当していただいている方は、3 名で学校への登校支援や訪宅支援をしていただいている。学期に 1、2 回程度ケース会議を開いて情報共有し、今後の方向性等を話し合っている。

・長期休業前の印刷・製本

例年、長期休業の前のプリント印刷や冊子作りを佐和山応援隊で行っていただいている。学校は学年通信や生活表、宿題の説明プリント等、印刷していただく原本と見本冊子を作成する。それを各学年児童分印刷していただき、クラスごとに仕分けしていただいている。これにより教師の学期末の事務負担が激減し、働き方改革にもつながっている。

・ミニ英語タイム

9 月から 1、2 年生の各クラスにて、月 1 回、朝学習の時間に英語学習を行っていただいている。中学年からの外国語学習への前段階として、英語学習に取り組んでいる。



【 ミニ英語タイムの様子 】

■ 実施に当たっての工夫

4 月、本年度も地域学校協働活動推進員の発信により、支援内容に応じた『佐和山応援隊』を募集していただいた。保護者・地域の方 43 名の登録で、本年度の地域学校協働本部事業がスタートした。支援が必要なときは、学校担当者が地域学校協働活動推進員へ連絡し、その後学年主任と地域学校協働活動推進員で連絡を取り合う形をとっている。また、地域学校協働活動推進員から地域人材に関する情報は提供をいただき、学習に合わせて依頼するという形をとっている。

地域学校協働活動推進員には、児童が学びたいと思ったことをもとに、迅速に地域人材や学べる場所等を探していただいた。また、児童の学びの進捗状況に合わせた支援をしていただくことができた。それを実現できたのも、地域学校協働活動推進員が各学年の学習内容を大まかに知ってくださっているからであり、学習の進度の共有を細かにしていただいたおかげである。今後も、児童主体で、学びたいことに合わせて支援を仰げるようなつながりづくりや細かな情報共有を大切に、活動を進めていきたい。

■ 事業の成果

事前打合せを丁寧にすることで、学習のねらいを共有し、安全上配慮事項・児童への対応の仕方等を佐和山応援隊の方に理解していただくことで、学習が充実した。また、双方向の連携関係の充実や児童からのお礼のメッセージ等は、佐和山応援隊の方の活動意欲の向上と学校経営の円滑化を促した。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

佐和山応援隊と地域学校協働活動推進員との連絡方法は、SNS 等を使って連絡いただいている。佐和山応援隊を募集するにあたり、保護者への呼びかけは学校を通じてできているが、地域の方への呼びかけは、推進員や学校運営協議会委員の人脈に頼る形となっているので、地域への呼びかけ方法を検討していく必要がある。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(教務、学年主任)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

地域と学校のつながりを生かし、学びの活性化と支援の充実を図る

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	旭森小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：56人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・不登校対策(SSRの活用等による居場所づくり) ・行き渋り児童の対策
- ・マーチングバンドの指導について ・登下校の見守り ・児童虐待の実態

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

・学校図書ボランティア「すまいる」の活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」の愛称で活動をしていただいている。今年度も、クラス単位での読み聞かせを定期的に行った。子どもたちは、生で伝わる読み聞かせのよさを、身をもって感じるようになった。学校図書館の本の整理にもご協力いただき、読書活動の充実の大きな支えとなっていた。

・子どもたちの心の活性化を図るゲストティーチャーの招聘

今年度も、多くの学年でゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んでいる。1年生の「昔の遊び体験」、3年生の「消防団による自警」「地域の歴史探訪」、4年生の「福祉学習」、5年生の「自動車に関する出前授業」等を行った。どの学習活動においても、子どもたちは本物を目の当たりにすることにより心の活性化を図り、深まりのある学習を行うことができた。今後も様々な分野のゲストティーチャーを招聘していきたい。



【 3年生 社会科の学習 】

■ 実施に当たっての工夫

・地域の方による熟議の進行(コーディネーター)

学校運営協議会での熟議が充実するよう、地域の方に進行役(コーディネーター)を担っていただき、各方面からの意見が積極的に交換できるように環境を設定した。学校関係者との打合せを繰り返し行い、活発に議論が行われるようにした。

・事前の打合せの充実

ゲストティーチャーに講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするとところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施してきた。連続して担当してくださる方も多く、事前に学習カリキュラムを想定して今年度の担当教員に助言をしてくださるなど連携がよりスムーズに図れたことが大きな成果と感じている。

・学校ホームページによる積極的な情報発信

保護者の理解を得ながら、できる限りの教育活動の公開を行ってきた。日々の教育活動について学校ホームページを通じ、「写真」と「概略の紹介文」の掲載を行い、日々の学校生活について保護者や地域の方が進んで閲覧する機会をもっていただけるよう、定期的な更新を心掛けた。また、校務支援システム「teturu」を活用し、学年通信等の積極的な発信に取り組んできた。登録している保護者から多くのアクセスがあり、一定の情報公開を行っている評価も得ている。今後も定期的な発信を行っていききたい。



【 学校運営協議会の様子 】

■ 事業の成果

- ・児童にとって、より主体的・体験的に学習する場を提供でき、人との交流の中で学びを深めることができていた。
- ・地域の方が、学校の諸課題に対して主体的に議論を深めてくださり、地域の児童への働きかけを深く考える機会が得られた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校運営協議会を通じて、地域に広く呼びかけ、「学校ボランティア」の輪を広げ、多様な教育活動の支援の輪を広げていく。

■ その他

学校HP <https://www.fureai-cloud.jp/asahinomori-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者(主幹教諭)

地域とともに子どもを「たがやす きたえる つなぐ」

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人(兼務：1人) ボランティア登録数：15人 ☐ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☐ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ■学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ☐ 郷土学習 ☐ その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・「地域と学校(子どもたち)とがつながる活動」とその運営について。
- ・生徒の思いを学校運営に反映するための学校運営協議会の持ち方。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- ・学校が主体となって地域の諸団体の方と生徒代表による「中学生の地域貢献」に向けての意見交換会を実施した。
- ・「地域と子どもたちがつながる活動」として、今年度も夏休みに「ラジオ体操の会」を開催した。併せて、資源回収も行った。
- ・地域の一人暮らしの高齢者のお宅へ訪問し、全校生徒制作の「クリスマスカード・ニューイヤーカード&ポスター」を生徒と民生委員児童委員さんが協力して届ける取組を生徒会が主体となって行った。マリーゴールドの種も一緒に届けた。
- ・地域の方を講師として招き、3年生にギター教室を開催した。
- ・スポーツ振興会、青少年育成協議会と連携し、イベントの役員やボランティアに生徒が参加し、活躍した。



【ラジオ体操の会】

■ 実施に当たっての工夫

- ・協働活動推進員と管理職や地域連携担当教職員と生徒との綿密な打合せを行った。
- ・それぞれの活動の意味を明確にし、生徒に活動の意義を伝えた。

■ 事業の成果

- ・地域の方とのふれあいをとおして、地域への愛着や地域を誇りに思う気持ちを育むことができた。
- ・ラジオ体操の会の取組では、早朝から昨年度を上回る多くの方々が来られ、西中学校区の明るい未来を感じさせる気持ちの良い時間となった。
- ・クリスマスカードの取組が、地域の方に受け入れられ、楽しみにされている高齢者の方も多く、生徒が地域で活動する取組とし根付いている。生徒の高齢者理解も深まった。
- ・ギター教室では、受験を前にしてストレスを感じていた生徒の心が安らぐ時間となった。
- ・社会福祉協議会をはじめ、地域の諸団体と連携協働をすることにより、生徒の学習を深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今後も、地域の方への丁寧な説明を行い、つながりを深めていきたい。また、地域の人材のさらなる発掘や活動内容の広報活動をしっかりと行うことが大切である。
- ・小学校との連携を進めることで、小中9カ年をかけて地域と豊かにつながることをすすめていきたい。

■ その他

これまでの活動の成果と課題を明らかにし、今後さらに効果的な活動を進めていきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(生徒会担当教員)

報告書記入者(教頭)

地域とともに歩む学校をめざして

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに ☒ 印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人(兼務：1人) ボランティア登録数：50人 ☒ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☒ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☒ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☐ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☐ 地域行事への参加 ☐ ボランティア・体験活動 ☐ 郷土学習 ☐ その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに☒印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☐地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

・「進んであいさつをする子どもを育てるために」をテーマに2回熟議の機会を設けた。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

- ・4年生：地域の方と一緒に福祉体験を行った。車いす体験や点字体験、手話体験を行うとともに、地域での取組も教えていただき、地域とともにある『福祉』について考える機会となった。
- ・6年生：地域の先人「井伊直弼公」の歴史的功績や文化的功績について課題を設定し、調べ学習を進めた。湖東焼き体験や茶道体験等、地域の陶芸家や彦根城博物館と連携して体験活動を取り入れ、学びを深めることができた。

(2)学びを豊かにする学習支援の充実

- ・1年生：交通安全教室では、近隣交番の警察官や市の交通安全担当の方に加え、学区の子ども安全リーダーの方に来ていただいた。通学路を想定したコース設定等により、自分たちが住む地域における交通安全への意識を高めることができた。
- ・5、6年生：家庭科の学習では、ミシンを使う学習の支援に地域の方に来校していただいた。エプロンやナプキンザックをミシンで製作する中で、丈夫にする縫い方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。

(3)地域とつながる

城西学区社会福祉協議会と連携し、環境委員会では、「花いっぱい運動」に取り組み、プランターに花の苗を植えた。後日、城西学区社会福祉協議会の方が、地域に配布してくださった。また、全校児童が、地域のお年寄りあてに各学年の学習や生活の様子を伝える手紙を書き、交流を深めた。児童が地域とつながる機会となった。



【 4年生 車いす体験 】



【 花いっぱい運動 】

■ 実施に当たっての工夫

地域の各種団体と担当者が連絡を取り合い、学校の情報や願いを積極的に発信することで、学習のねらいと各種団体の思いが重なるようにした。また、継続的な取組となるよう、学習・活動内容を精査した。

■ 事業の成果

地域に足を運び、自分の目で確かめたり、地域の方と交流したりすることをおして、自身のふるさとへの関心が高まり、よさを発見・再認識する機会となった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今後も継続して取り組むことができるよう、学校側は地域の取組に関する情報やニーズを把握するとともに、地域人材の整理・発掘に努める必要がある。また、学校や教員が、地域について学ぶ機会を設定したい。

■ その他

学校ホームページ：<https://www.fureai-cloud.jp/jyosei-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに☒印)

☐校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者(教頭)

地域に学び、人・もの・自然への愛着心を育てる『城北たんけん～このまち大好き～』

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城北小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：40人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・学校の応援団として協議会の委員が普段の教育活動も参観する等して児童の様子を見守り、より適切な支援ができる体制づくりに努める。
- ・地域ボランティアの積極的な募集を行う等、人員の確保が必要である。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1) 学びを豊かにする学習支援

- ・地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動の充実を図った。
- ※のぞみ「野菜を育てよう」1年生「英語に触れよう」3年生「セーリング体験」
- ・全校児童が参加する「ふるさと探訪オリエンテーリング」を地域の方々との協働による活動として実施することができた。

(2) 読書環境の整備(読み聞かせ活動・図書室の整備)

- ・毎週1回の読み聞かせ活動や月1回の図書室の整備(時節にあった飾りや本の紹介コーナーを工夫する等)を、地域と学校が連携して進めることができた。

(3) 学習環境の整備

- ・校地内の樹木の剪定や運動場の整備を協働で行った。



【3年生 セーリング体験】



【ふるさと探訪オリエンテーリング】

■ 実施に当たっての工夫

- ・本校の特色ある教育活動である「ふるさと探訪オリエンテーリング」は、地域の方々の協力を得て、異学年による色別の班に分かれて、安全面に留意して実施することができた。
- ・読み聞かせ活動では、大型テレビに絵本を映し出す等、挿絵の見せ方や読み方を工夫していただき、お話の世界に浸ることができた。

■ 事業の成果

- ・学習過程において、実際に地域の方から話を聞いたり一緒に体験活動を行ったりすることで、児童の興味・関心が高まり、学びを深めることができた。また、地域の人と触れ合うことで、地域で出会った際に挨拶する等、人とのつながりが生まれ、地域への愛着が育ってきている。地域の豊かな人材や教育力に、学校教育が支えられていることを痛感した次第である。
- ・地域の方々が支えてくださる活動について、全校放送などを通じて発信し、感謝の気持ちがもてるように努めている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域ボランティアの高齢化、次年度の見通しが十分にもてない状況であることが課題であるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層の連携を図って活動を行っていききたい。また、児童が、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会を可能な限り設定し、つながりを絶やさない努力を学校として行っていききたい。
- ・地域学校協働本部のリーダーや毎回参加いただいている方々の協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていききたい。

■ その他

活動の様子は本校のホームページに掲載しています。 <https://www.fureai-cloud.jp/jyohoku-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(学級担任)

報告書記入者(教頭)

地域・公民館とともにある学校 SCHOOL SUPPORT

彦根市	活動名:中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校 学校運営協議会 : ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 開始年度:平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数:2人 ボランティア登録数:14 人 ☐ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☐ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☒ 学校行事支援 ☐ 子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☒ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☒ 地域行事への参加 ☒ ボランティア・体験活動 ☐ 郷土学習 ☐ その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

・3回目の学校運営協議会では、委員の他に生徒や保護者にも参加を呼びかけ、「そもそもコミュニティ・スクールは、誰にとって良いものにすればいいのか？」をテーマに熟議し、地域学校協働活動の具現化や整理につなげることができた。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- (1)PTA活動である学校清掃作業に協力を依頼し、地域学校協働活動推進員などが、作業の段取りや運搬車両の手配についての助言をし、伐採した樹木や草木の搬出を手伝っていただいた。
- (2)校内の環境整備事業として樹木の剪定と整備に取り組んでいただいた。
- (3)「中央中博覧会」として、授業や部活動、行事などでの生徒の制作した作品等を、地域の公民館に約1週間展示していただくとともに、その設営や後片付け等で支援していただいた。また美術部の活動とリンクさせ、案内ポスターを制作し地域に回覧・配布した。
- (4)公民館の文化祭に吹奏楽部が演奏する機会を設けていただくとともに、会場の準備や楽器の運搬に支援していただいた。

■ 実施に当たっての工夫

・公民館との連携

公民館の文化祭で、吹奏楽部が演奏する場を設定していただいた。与えられた約1時間のなかでどのような曲を演奏するか、楽器の紹介をどのように組み込むのかについて、部員が相談し、プログラムを考える中で、生徒の主体的な力の育みにつなげることができた。また多くの方々に鑑賞していただくことで、生徒は充実感を得ることができた。学校からの楽器の搬出入を含め会場の設営などにも地域ボランティアの方々に協力いただいた。

公民館と連携して中央中博覧会を実施した。公民館を会場にすることで、保護者や地域の方々に鑑賞していただくことができた。特別支援学級に在籍する生徒の中には、この博覧会で展示するために毎年工作に取り組んでいる者もあり、自分の得意なことを表現する場として主体的に制作活動に取り組んでいた。また、学区小学校にも協力依頼し、次年度から中学校に入学する現小学校6年生の書写の作品も展示することで、6年生の児童および保護者が中学校の取組について知っていただく機会にもなっている。

案内ポスターは美術部が制作し、公民館の案内チラシとともに地域に配付した。



【中央中博覧会 美術部ポスターと会場】

■ 事業の成果

- ・毎年の活動については、支援の方々によく理解していただいております、スムーズな協働活動ができるようになってきている。
- ・学校と地域、地域の公民館と連携した取組ができるようになってきた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働本部事業の活動スタッフの高齢化・固定化の解消が依然課題となっている。新たな人材を発掘していく必要がある。
- ・地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高めていけるようにする。また、支援の輪を広げ、支援者の得意を生かし学校の教育活動の充実につながる活動を模索していく。
- ・本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事等の教育活動への計画的な導入や連携を図っていく。

■ その他

活動の様子は本校ホームページに掲載 <https://www.fureai-cloud.jp/chuo-jh-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教員 ☐その他()

報告書記入者(教頭)

豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名:中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成23年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:25人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・本年度の学校運営方針について
- ・スクールガードについて
- ・子どもたちの安全と地域の防犯について

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)「全校ふれあい遠足」における安全指導ボランティア

本年度も、本校の伝統行事である「全校ふれあい遠足」において、学校から彦根城までの行程の安全指導をしていただいた。地域学校協働本部に登録されているメンバーと保護者にボランティアを募り、合計19名の方にお手伝いをしていただいた。道中ならびに彦根城内で、子どもたちの安全確保をすることができた。また、子どもたちにとっては地域の方との交流だけでなく、世代間交流といった視点からも、大変充実した機会となった。

(2)学習環境の整備(教材園の整備、学校敷地内樹木の整備)

年間をとおして各学年の教材園や除草作業、剪定作業をしていただいた。そのおかげで、理科や生活科、生活単元学習などの学習をスムーズに行うことができた。また、本年度も正門前や玄関前の花壇には、季節に合った花を植えてくださり、本校に季節感や彩を添えてくださった。

(3)豊かな言語活動の充実を目指した「読み聞かせ活動」

本校では豊かな言語活動の充実のために、朝学習の時間を活用して国語科の学習を行っている。各月の第1水曜日は「読み聞かせの日」を設定し、地域ボランティアの方に学年・学級に応じた内容の読み聞かせをしていただいている。



【 全校ふれあい遠足 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・何もかも地域学校協働本部に委ねるのではなく、子どもの主体的な力を育むために、学校で「できること」「できないこと」を見極め、学校だけでは対応しきれないことへの支援をお願いするようにした。
- ・本年度もなるべく子どもたちとの交流場面を設定し、人間関係づくりの場を増やせるよう、意図的な計画を立てるようにした。

■ 事業の成果

- ・地域連携を密にすることで、子どもたちの姿(登下校時や放課後の様子)についての情報共有をする機会が増え、日々の生活指導に生かすことができた。
- ・ボランティアさんからは、「子どもが元気に挨拶してくれるので元気をもらっている」「地域・学校・家庭のつながりを大切にしたい」等の感想があった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

メンバーの高齢化や固定化が進んでいるので、本事業の情報を地域に発信(回覧板等)して募集をかけていく。

■ その他

活動の様子を学校ホームページ等で紹介している。

学校HP <https://www.fureai-cloud.jp/hirata-hikone/>



【 学校運営協議会の様子 】

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

地域の力でつくる子どもたちの豊かな学習活動

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	金城小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：116人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援、図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・保護者ボランティアの取組報告と活動の活性化について
- ・デジタルセーブや家庭学習についての取組報告
- ・移転開校50周年記念事業について



【保護者ボランティアによる清掃支援】

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- (1) 登下校の安全パトロールとあいさつ運動
金城見回り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、あいさつの声掛けやコミュニケーションをとり、子どもたちの安全を見守ってくださっている。
- (2) 町探検や施設探検の引率支援
1年生の学校探検や2、3年生の町探検・施設探検で、引率補助をしてくださり、目的地が複数箇所にもわたる場合も、安心して探検させることができた。
- (3) 体験活動の支援
1年生の生活科や3年生の社会科では、学習支援をお願いした。また、5、6年生の家庭科のミシンの学習補助として、助けていただいた。
- (4) 朝の読み聞かせ
年間を通じて、朝読書の時間に読み聞かせをしていただいた。
- (5) 清掃支援(プール清掃含む)や花壇などの環境整備
清掃ボランティアに登録いただき、週1回～月1回とボランティアのペースで、清掃支援をしていただいた。また、花壇や畑の耕しや苗植えなどにもお手伝いいただいた。



【子どもたちと共に花壇に苗植え】

■ 実施に当たっての工夫

- ・今年度より地域ボランティアにプラスして、保護者ボランティアを募り、名簿の冊子を作成した。各学年に名簿の冊子を配付して、学習支援の必要ときに担任が直接連絡をお願いできる形をとった。
- ・地域の支援母体である「すこやか金城の会」が主催となる行事に学校やPTAからも積極的に参加した。

■ 事業の成果

- ・通学路の見守りをさせていただくことで、子どもの安全確保につながっている。また、登下校の様子など適宜伝えていただくことで学校だけでは気付かない実態を把握し、即時に指導することにつながった。
- ・町探検や施設探検の引率支援をしていただくことで、これまで行くことができた場所に限りがあったが、子どもたちの思いのままに探検先を増やすことができた。
- ・ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材をいかし、充実した学習活動を行うことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働活動推進員が多忙であるために、ボランティアをしてくださる方々には直接学校が連絡をし、調整をしなくていけない。
- ・今年度、ボランティア登録を保護者に広げたことで、活動の幅が一気に広がったが、これを来年度以降も持続されていくことが必要となる。持続可能な取組について、今後、学校運営協議会で熟議していかなくてはならない。

■ その他

学校ホームページ：<https://www.fureai-cloud.jp/kinjyo-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

彦根南サポートオフィス13年目の取組 共に助け合う関係づくりをめざして

彦根市	活動名:南中学校区地域学校協働本部	南中学校 学校運営協議会 : ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成23年度 地域学校協働活動推進員等数:2人 ボランティア登録数:30人 ☒ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☐ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☐ 学校行事支援 ☐ 子どもの安全確保、見守り ☒ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☒ 地域行事への参加 ☒ ボランティア・体験活動 ☐ 郷土学習 ☐ その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・めざす地域の子どもの姿と、効果的なコミュニティ・スクールのあり方。
- ・地域と学校が協力・連携した「防災教育」および「防災訓練」の実現に向けて。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)グリーンカーテンづくり(6～9月)

夏に日陰を作るグリーンカーテンづくりに取り組んだ。地域ボランティアの方と生徒や教職員で、支柱立てや植え付け、摘芯や水やりなどの協働作業を行っている。

(2)環境整備作業(11月23日)

学校周辺のフェンス際の草刈りや溝掃除、校地内の清掃活動を、地域貢献活動として生徒、保護者・地域の方、総勢119名で行った。

(3)プランターの花植え(12月12日)

地域学校協働活動推進員の指導により、卒業式での活用も見据え、プランターの花植えに取り組んだ。土入れ、苗の植付け、水やりまで、生徒も加わり熱心に取り組んだ。

(4)地域貢献活動(通年)

地域ごとに、中学生が参加できる活動を紹介していただき、生徒たちがボランティアとして参加する、地域貢献活動「南中ボランティア」を再開した。



【 環境整備作業 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域と学校の連携を推進するために、tetoru(保護者連絡ツール)配信や学校ホームページでの情報提示を活用しながら人材確保を図った。
- ・地域学校協働活動推進員と担当教員が定期的に連絡を取り、情報交換や運営について話し合った。
- ・地域学校協働活動推進員のスキル向上に向け、研修等を随時紹介し、研修機会の確保を行った。
- ・コミュニティ・スクールとしての効果的な連携のあり方について検討を進めた。

■ 事業の成果

- ・環境整備作業への参加が多く、親子ならびに地域における交流が実現した。
- ・地域貢献活動「南中ボランティア」を再開、実施し、地域と生徒のかかわりの場と機会を創ることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・活動を充実させるためのボランティアの人材確保が難しい状況である。親子での活動や、地域の方と生徒が協働する場面を設定していくことも大切と考える。また、地域の大学や企業等と連携・協働も模索しながら事業を推進していきたい。
- ・地域と協働した「防災訓練」の実施計画を進めたい。非常災害時に、共助の視点からの行動が実現するように、地域の方々と学校および生徒との関係づくりに着手したいと考えている。



【 プランターの花植え 】

■ その他

学校ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/minami-jh-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

つながりが生み出す豊かな学び

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城南小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：45人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

年度当初に、計画書を作成し協議することで、前年度の反省をふまえながらいつ頃どのようにご協力いただくか、熟議することができた。また、その際には、例年ご協力いただいているボランティアの方と校区の社会福祉協議会の方との活動とが、かぶらないように気をつけた。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

・行事(運動会、音楽会等)の運営補助

職員の配置が手薄になることが予想されたので、地域の大学生等をお願いしたところ2名の方にお手伝いいただけた。運動会や音楽会の準備・片付けなどで力を貸していただき、スムーズに運営することができた。

学習参観日には、不審者対策として受付を設けており、受付に常駐して名札カードのチェック等を行っていただいた。

・読書ボランティアによる「読み語り」

朝のさわやかタイムに、各教室で読み語りをしていただいた。毎回、児童の興味関心をひく本や、季節等に合わせた本を選んでくださり、ボランティアの方の周囲に集まった児童らは、お話に聞き入り、本の世界に浸っていた。

また、図書室に「読み語り」で使った本のスペースを設けたり、図書室前の掲示板におすめの本や季節の飾りを掲示したりするなど、児童らが本に親しみやすい環境を整えていただいた。

・社会福祉協議会の方々による「校外学習引率ボランティア」

2年生の生活科や3年生の総合的な学習の時間に地域に出かける際、引率のボランティアをしていただいた。児童らが安全に校外で学習できるように、また、見学場所では小グループで活動できるように、たくさんの方に来ていただいた。事前の打合せでは、学習のねらいが共有できるようにした。



【読み語り】



【引率ボランティア】

■ 実施に当たっての工夫

2年前から協力いただけることになった社会福祉協議会の方や長年支えてくださるボランティアの方の強みと、効果的な支援の場を考えながら、ボランティアの依頼をした。

■ 事業の成果

- ・児童は、「読み語り」を毎回楽しみにし、集中して引き込まれるように聞くことができた。読まれた本に興味をもち、自分でも読もうと図書室で借りる児童がいた。また、日頃から読書に関心をもち、意欲的に本を借りて読む児童の姿につながっている。
- ・今年度も校区内の校外学習の引率に協力いただき、児童の安全管理において大変助かった。校区の社会福祉協議会の方との連携も3年目となり、連携をとりやすくなり、本年度は、ほぼ計画とおり実施することができた。

■ その他

学校HP <https://www.fureai-cloud.jp/jyonan-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者(主幹教諭)

つなげよう 子どもを育む地域の力 ～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名:南中学校区地域学校協働本部	城陽小学校	学校運営協議会 : ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成23年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:60人 ☒ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☒ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☐ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☐ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☒ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☐ 地域行事への参加 ☐ ボランティア・体験活動 ☒ 郷土学習 ☐ その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・5年生で助産師さんをゲストに招いて話を聞く学習をされていたことが大変良い。地域の方や専門職の方から子どもたちが学ぶものは大変多いと思うので、このような機会を増やしていけるとよい。
- ・地域ごとの横のつながりが希薄であるので、子ども・保護者と地域が一緒になって活動できる機会がもっと増えるとよい。
- ・タブレット端末の持ち帰りなど、子どもの家庭学習の充実に向けて工夫していきたい。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

・読書活動支援

朝の活動の時間には、読書ボランティアの方々に各学級で絵本の読み聞かせをしていただいている。また、図書環境ボランティア1名の方が隔週、図書の整理や修繕だけでなく、行事や季節に合わせた図書室内の飾りなどを工夫し、子どもたちが読書に親しめるように活動してくださっている。また、「秋のお話会」を学年部ごとに実施し、ひこね児童図書研究グループの方々に、紙芝居や読み語り等をしていただいた。

・第5・6学年 家庭科「レッツ！ソーイング」

5年生は、裁縫セットやミシンを使つてのトートバック製作、6年生はエプロン製作に取り組んでいる。特に5年生は初めてのミシン学習であり、使い方を丁寧に指導する必要がある。ここ数年、同じ方がボランティアとして来てくださっており、子どもがどのようなところにつまずきやすいかよく把握されている。操作手順を助言したり、苦戦している子どもに声をかけたりして、熱心に支援いただいた。6年生にも同様に支援していただいた。

・第1学年 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」

けん玉、こま、だるま落とし、あやとり、おりがみなどの昔から伝わる遊びを地域の方に教えていただきながらともに遊び、交流した。



【 朝の読み聞かせ 】



【 裁縫ボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫

コロナ禍もありボランティアバンクの整理が十分でなかったため、次年度以降のために活用状況を一覧表に整理している。

■ 事業の成果

- ・子どもたちは朝の読み聞かせや、毎年実施している「お話会」をとても楽しみにしている。図書室には季節や学習内容に合う本が、見やすくレイアウトされており、読みたい本がすぐ見つかる環境となっている。このような取組により、児童の読書意欲の向上につながっている。
- ・学習支援は、子どもの学びをより充実したものにするだけでなく、教職員数が少ない本校において、教職員の業務軽減にもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学区が広く、小学校区全体をまとめる地域の組織がないことから、学校が中心となって活動を進めていく必要がある。2年目となった学校運営協議会をさらに生かしていきたい。
- ・子どもだけでなく教職員も他学年の活動を具体的に知る機会があまりなく、また、担当以外が地域の方と深く関わる機会がない。顔合せ会や感謝を伝える場などをもつなど、教員や子どもの思いをつなぐ工夫が必要である。

■ その他

今年度で学校運営協議会が2年目となり、より地域の方と顔を合わせ、話し合う機会が増えたことで願いや思いを共有できた。今後も子どもを中心として話し合い、皆で子どもを皆で守り育てる意識、土壌を育んでいきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☒校長 ☒教頭 ☐地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者(教頭)

「子どもたちの笑顔のために」チームわかバンク9年目の取組

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	若葉小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに ☒ 印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人 ☒ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☒ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☒ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☐ 地域行事への参加 ☐ ボランティア・体験活動 ☒ 郷土学習 ☒ その他[土曜支援(教室)…第1、3週の土曜日AM]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに☒印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

・地域学校協働本部(わかバンク)の組織について ・年間の活動内容について ・育成する児童像について

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(子どもの主体的な力を育むための工夫)

・「若葉の森」の環境整備活動

校地内に植えられている2000本を超える樹木は、「若葉の森」として地域の方にも親しまれている。開校当時からこの「若葉の森」の樹々を学習の題材として、生活科・総合的な学習の時間、特別活動等を中心に樹に関わる学びを深めている。常設の支援(図書・学習・見守り・広報・土曜)に加え、特設の環境整備部により校地内の葉刈りや剪定、花壇の整備等の支援を充実させることができた。今後も自然豊かな環境を維持し、児童への学びへつなげていきたい。



【 環境整備部による葉刈り 】

・命を育む栽培活動

これまでから地域の方にお借りしている畑を学校園として、全学年で栽培活動を進めている。この活動の目的は、児童が苗植えから水やり、草取り等、野菜を育てる過程を大切にし、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるよう、地域のボランティアさんのご協力をいただいで進めてきた。今年度も地域活動推進員との入念な打合せを行い、教育活動の目的に応じた栽培活動(畝立て、苗植え、収穫など)に支援をいただくことができた。

(新たな地域人材の発掘やつながりづくりのための工夫)

・地域の高校との協働によるプログラミング学習や卒業制作

これまでから地域のマイスター・ハイスクールである彦根工業高校の建設科と連携を図り、愛校運動の一環として中庭テラスの修繕作業などに取り組んできた。今年度は、卒業制作としてカラムテーブル付ベンチを作成した。さらに、電気科とも連携を広げプログラミング学習を実施してきた。高校生からは、プログラミングについての話を聞き、実際にScratchを使用してプログラミングに取り組んだ。今後もマイスター・ハイスクールとの連携を図り、キャリア教育へとつなげていきたい。



【 カラムベンチ制作 】

■ 実施に当たっての工夫

地域活動推進員と地域連携担当教員が連携を図り、地域と学校が協働した活動を教育課程に位置付け進めることができた。活動について広く発信できるよう、広報紙を発行したり、学校ホームページで紹介したりして啓発を図った。

■ 事業の成果

地域学校協働活動推進員を中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」「土曜支援」「環境支援」の6つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、どの活動も価値ある成果を感じることができた。学校運営協議会を設置して9年目をむかえ、「地域の方」から「わかバンクの方」へと児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、PTAをはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。支援メンバーの高齢化も伴い、今後の継続を可能とする組織改編が急務である。保護者への参画を呼びかけ、地域・保護者で児童の成長を支える活動の充実を進めていきたい。

■ その他

年間4回、学校運営協議会を開催。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに☒印)

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者(教頭)

ふるさとを愛し、ふるさに学ぶ「We Love かめやま」

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：30人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・学校の教育活動における地域(郷土学習)や地域人材活用の現状について
- ・学校教育につながる地域人材の発掘・活用について

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1) 栽培活動支援

毎年、プール横の畑でのさつまいも作りに支援していただいている。昨年度は酷暑の影響で実り多い収穫とはならなかったこともあり、今年度は、藁を敷いたり、休日の水やりをしていただいたり、何度か来校して支援していただいた。1年生から3年生までの児童が収穫するときには、土の掘り起こし方を教えていただき、たくさんさつまいもが収穫できた。収穫までの管理について、担任と連携をとりながら、支援いただいたことが、児童の収穫の喜びにつながった。



【 さつまいもの収穫 】

(2) 3年生 社会科「昔のくらし体験学習」

洗濯板を使っての洗濯体験、米を収穫するときに使われていた脱穀機のことなど、使い方を教えてもらいながら、昔の道具について学習することができた。

地域の方がたくさん支援に来てくださり、実際に洗濯板で雑巾を洗ったり、藁で草履を編んだりして体験することができた。



【 昔の道具体験(洗濯板を使って) 】

■ 実施に当たっての工夫

地域学校協働活動推進員は、これまでも学校事情や児童の実態について理解していただき、柔軟に対応してくださってきた。今年度も同様に、支援していただきたい授業について、地域学校協働活動推進員との打合せの時間を十分に取、学習時の具体的な支援内容を共有できるようにした。

■ 事業の成果

- ・地域学校協働活動推進員に、学校のニーズに合った人材を紹介していただき、教育活動の充実につながっている。
- ・ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができています。
- ・支援の必要な行事や学習内容の時期になると、地域学校協働活動推進員から声をかけてもらい助言をいただいている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。
- ・今後新たな活動を計画していくために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■ その他

学校ホームページ： <https://www.fureai-cloud.jp/kameyama-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

□校長 ■教頭 □地域連携担当教職員 ■その他(各担任)

報告書記入者(教頭)

未来に向け、地域と学校（生徒）で創る継続的な協働活動

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：30人 ☐ 学習支援（授業補助、学力補充等） ☐ 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ■学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ☐ 郷土学習 ☐ その他[]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ☐地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域学校協働活動への保護者参加が多くなるための方策についてテーマに熟議を行った。メール配信で呼びかけること、活動後に交流の機会をもてるようにすること、学校行事における駐車券や特別席を返礼品とすることなど、多くの意見が出された。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 緑のカーテンプロジェクト（取組11年目）

- ・5月上旬に、支柱設置、ネット張り、ゴーヤの苗植えを、地域ボランティアの指導のもとで実施した。
- ・環境委員会や各部活動および地域学校協働活動推進員による水やりを毎日行い、9月下旬に支柱の撤去を行った。
- ・CO₂ネットゼロの活動とも関連付けて取組を実施した。

(2) 花いっぱい運動

- ・正面玄関に設置するプランターの花を3ヶ月ごとに植え替え、常に来客者を花で迎えられるようにした。

(3) 学校行事への支援

- ・入学式や体育大会などの学校行事における駐車場整理での保護者とのつながり。
- ・全校長距離遠足の際の交差点での交通誘導。
- ・校地内の葉刈り作業や、愛校作業への参加。
- ・資源回収活動における軽トラックの協力。



【 緑のカーテンプロジェクト 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・活動内容を紹介する掲示物を作成して校内に掲示した。
- ・地域学校協働活動推進員と連携して、小学校区ごとの各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。
- ・地域学校協働活動推進員が司会進行や作業内容の説明を行うなど、地域が中心の活動となるように役割分担を行った。
- ・生徒の地域貢献活動カードを作成して、参加したことが形に残るようにした。
- ・特別支援学級の調理実習に地域の方を招待し、生徒との交流を推進するだけでなく、日頃のお礼もこの機会に伝えた。

■ 事業の成果

- ・緑のカーテンプロジェクトは取組11年目になり、生徒や地域の中で定着している。作業を通じて、自分たちの学校環境を自分たちで良くしていく意識づけになった。
- ・多くの地域ボランティアの方に参加だけでなく、保護者ボランティアにも多数参加いただき、生徒たちを中心に協働する活動を充実させることができた。
- ・学校での活動に地域の方が来てくださることで、地域での活動に生徒が安心して参加するようになった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。
- ・自治会組織が弱体化して地域での交流が減る中、地域と生徒とのつながりだけでなく保護者の参加を促し、以前よりも参加していただくことができた。さらに保護者や地域からの参加が増えていこう、今年度末に案内チラシを地域に配布し、次年度はボランティア登録制度を実施していけるように準備している。
- ・活動に一度も参加したことのない教職員をゼロにするため、初めて本校勤務となる教職員にも参加を促し、地域との連携を図り、他の活動へとつなげたい。

■ その他

コミュニティ・スクールがスタートしたことで、活動における多くの役割を学校側だけが担うのではなく、学校運営協議会として活動が運営できるようになってきた。地域と保護者とのつながりも深まり、お互いの声かけや協働活動にもつながってきている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者（教頭）

見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：20人 ☐ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☒ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☒ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☐ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☐ 地域行事への参加 ☒ ボランティア・体験活動 ☒ 郷土学習 ☐ その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☐地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

・次年度以降「学校」と「地域」が一緒に活動できることについて話し合った。季節の行事、登下校の見守り、スクール農園、町探検(郷土学習)、環境学習、キャリア教育など、各学年における学習内容にあった取組について話し合った。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)「チューリップを育てよう」(1年生)

生活科の学習の一つとして「チューリップを育てよう」を行っている。身近な自然の様子や四季の変化に気付く学習の一つとして地域の方と一緒に球根を植える活動を行っている。

(2)「町探検」(2年生)

郷土学習として、広い河瀬学区の町をより深く詳しく知る学習となっている。自分が行ったことのない公園や施設について実際に行き、見て、知る学習となっている。また、見学に行く施設の方に実際に話を聞いたりすることで、施設の役割や働いている方の思いを知ることができた。



【 2 年生 町探検 】

(3)「大豆はかせになろう」(3年生)

1学期から学級園で大豆を育て、2学期に大豆からできる様々な食品について学習を行っている。自分たちが育てた大豆が、身近な食品に生まれ変わることを体験できる学習となっている。また、11月末には、地域の方が育てている大きな大豆畑を見学し、大きな機械を使って収穫している様子について見学した。



【 3 年生 大豆植え体験 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域と学校が連携できるように、地域学校協働活動推進員の方を中心に各種団体と連絡を取り合いながら日程や活動内容を計画し、交流を図ることができた。
- ・毎年、年間計画を見直し、昨年度までの協働活動が教科との関連性があるか、また新たに必要活動が組めないかカリキュラムマネジメントを行った。

■ 事業の成果

- ・毎年、カリキュラムマネジメントを行うことで、教科や学習と関連付けた体験活動を行うことができた。
- ・多くの地域の方に出会ったり、施設に訪れたりすることで自分たちの住む地域が多くの方によって支えられていることを感じることもできた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域学校協働活動推進員、ボランティアとともに高齢化が進んでいる。今後も継続して支援活動を組んでいただいたり、新しい支援活動が計画できたりするように、新しい人の人材発掘が重要である。

■ その他

活動の様子を各クラスの通信や本校ホームページにて紹介している。

<https://www.fureai-cloud.jp/kawase-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☐校長 ☐教頭 ☒地域連携担当教職員 ☒その他(各学年の教員)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

地域力を学校に 学校力を地域力に

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	高宮小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：80人 ☐ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☒ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☐ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☐ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☒ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☐ 地域行事への参加 ☐ ボランティア・体験活動 ☒ 郷土学習 ☐ その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☐学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

本校が大切にしている「一人ひとりが大切にされる高宮小学校、一人ひとりを大切にする高宮小学校」にするために、学校としてできること、保護者地域としてできることについて協議した。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)読み聞かせ活動

毎週火曜日を読み聞かせの日に設定し、地域の方に協力していただき読み聞かせを行っている。

(2)各学年の学習支援

郷土学習の充実にかかる支援
栽培活動の支援



【 さつまいも栽培 】

■ 実施に当たっての工夫

【さつまいも栽培】

2年生では、生活科でさつまいもを育てている。地域の方に苗の植え方やさつまいも育ち方などを教えていただいた。また、収穫の際も来ていただき、一緒に収穫の喜びを感じることができた。

【高宮探検】

3年生の総合的な学習の時間では、中山道の現状や歴史について知るだけでなく、ふるさとを大切にしたいという町への愛着を高めることを目標に学習を進めている。この学習では、まず高宮の地域を知ることからスタートする。そこで、地域の方と一緒に地域を見て歩いたり、話を聞いたりしながら学習を進めてきた。また交通量が多く道幅が狭い中山道を歩くので、児童が安全に歩行できるように引率の協力をお願いしている。学習をととして、中山道の街並みや、昔の学校の様子などについて理解を深めることができた。



【 高宮探検 】

■ 事業の成果

本校は、年々地元出身の保護者が減少し、地域の歴史はもとより伝統文化や行事などを知らない児童が増えている。また、住民同士のつながりも希薄になってきている。本事業をととして、地域住民の多くの方々は、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする児童の姿を喜んでくださり、好評価である。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

児童だけではなく、保護者、教職員も地域学校協働活動推進員との繋がりが薄い。また、教職員の中には、担当以外の学年の活動を知らないものも多い。保護者(PTA 役員)、教職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。そこで、顔合わせ会や学校運営協議会の開催、感謝の集いなど、職員や児童らの思いをつなぐ機会が必要である。

■ その他

学校運営協議会では、年度初めに本校の経営方針を共有し、本年度の方向性について協議した。また、1学期の児童・保護者アンケートをととして、本校の強みや課題について考え、児童がよりよく学校生活を送るためにできることを協議した。

■協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：30人 ☒ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☐ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☐ 学校行事支援 ☐ 子どもの安全確保、見守り ☒ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☒ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☒ 地域行事への参加 ☒ ボランティア・体験活動 ☒ 郷土学習 ☐ その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・地域住民と中学生の交流の場として、地域の行事(文化祭や公民館行事など)への積極的な参加をお願いしたい。
- ・部活動に、地域住民の経験者が指導者になってほしい。
- ・自然に触れる体験を大切にして子どもたちの心を育んでほしい。地域の持つ魅力を味わわせてほしい。



【 男鬼森林学習 】

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)男鬼森林学習

学区有林(財産区共有山林)の森林整備作業について学習し、植樹や間伐作業などを実際に体験した。森林の保全と有効な活用との調和について理解することができた。

(2)地域との連携

夏季休業中、中学校の芝生グラウンドの水やりを実施していただいた。文化祭において、吹奏楽部の演奏及び、書写や美術作品、総合学習新聞等を展示した。

中学校のキャラクター「さんあかレンジャー」が彦根市のキャラクター「ひこにゃん」と「わるにゃんこ將軍」とコラボした。また、宿場まつりでは、生徒全員で鳥中ソーランを披露した。さらに、学区の運動会に中学生が役員として活躍した。

■ 実施に当たっての工夫

- ・森林学習では、地域の山林の保全や活用について理解を深めるため、財産区の方を講師に招き事前学習を行っている。
- ・学区の文化祭の参加については、教頭が打合せを小まめにして、楽器の搬入等が安全に行えるようにした。

■ 事業の成果

地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらうことが、生徒の励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。



【 学区文化祭 さんあかレンジャー登場 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

■ その他

1小学校1中学校で、鳥居本学園として小中一貫型教育を行っている。体育大会や地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者(教頭)

「ふるさとと共に生きる喜びを」～地域と共に～

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校	学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：50人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点にたち、子どもたちがふるさと鳥居本に生きる喜びを感じられるように鳥居本学区の特色を生かした事業の進め方について意見交換をした。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

・5、6年生家庭科 ミシンでソーイング

10月に、5・6年生の家庭科で、ミシン学習の支援をしていただいた。5年生は、初めてミシンを使う子どもが多く、ミシンそのものの扱いに慣れていないため、ミシンが止まったり、糸が絡まったりしたときに、友だち同士では解決できないことも丁寧に教えていただいた。ミシン縫いの楽しさを味わいながら、5年生はエプロン、6年生はナップザックを全員仕上げることができ、生活に役立つ物を作る喜びを感じ、豊かなかかわりの中、一人一人が自信をつけることができた。



【 ミシンでソーイング 】

・読み聞かせ活動・図書室環境整備

地域・保護者の方に、図書室の本の整理や新刊図書の紹介、年中行事に合わせた掲示物の更新などをしていただいている。また、毎月1回(水曜日8:15～8:30)、約10名の方が学級毎の読み聞かせをしてくださっている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。本の内容や 発達段階により様々な工夫を凝らしていただいている、子どもたちの豊かな心の育成につながっている。



【 読み聞かせ 】

■ 実施に当たっての工夫

- (1)子どもの主体的な力を育むための工夫として、地域学校協働活動推進員と年度当初と年度途中に定期的に相談をし、具体的な子どもの活動をイメージし、成功体験を積み重ね、自信につながるように、参加者の人数を検討し、学習を実施した。
- (2)新たな地域人材の発掘やつながりづくりのための工夫としては、地域の方に、具体的な学習活動を伝え、どのような活動時に何名の協力者が必要などと具体的なことを相談し、地域の方から新たな方を紹介いただいた。

■ 事業の成果

子どもたちが、地域の人・もの・自然に触れながら、活動をすることができた。活動をととして、子どもたちは地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。地域学校協働活動推進員が保護者や地域の方々に広く参加を呼びかけることで、支援者の数も徐々に増え、特に中学年や低学年の保護者が高学年の学習に加わってくださり、今後の滑らかな人的資源の引継ぎにつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の豊かな人材や教育力や教材に、学校教育が確かに支えられていることを実感した。次年度の見通しをもち寄り、効果的な学習を目指し、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層密に連携して活動を行っていききたい。地域への情報発信を充実し、子どもの主体的な学びを後押ししていきたい。

また、地域の団体(青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、スポーツ振興会など)と学校とがさらに連携を深めることで、組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていききたい。

■ その他

鳥居本学園ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/toriiimoto-hikone/> 小、中学校の様子をお知らせしている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(担任)

報告書記入者(教頭)

地域の未来につなぐ学校支援

彦根市	活動名:稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成20年度 地域学校協働活動推進員等数:2人 ボランティア登録数:64人 ☒ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☒ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☒ 学校行事支援 ☐ 子どもの安全確保、見守り ☒ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☒ 学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☐ 地域行事への参加 ☒ ボランティア・体験活動 ☒ 郷土学習 ☒ その他[地域運動部活動事務局]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☐地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

中学生の地域貢献活動について熟議した。新型コロナウイルス禍以前、生徒たちは地域行事に熱心に参加していたが、多くの地域で行事が中止され、現在もお復活されていないところが多い。

連合自治会へも呼びかけ、地域行事の復活を望むところであるが、差し当たって学校の環境整備を生徒たちとともに、地域ボランティアでできないものか協議会参加メンバーで話し合った。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災者に向けて、募金活動を学校の提案で行われた。何かメッセージ性のあることはできないものかと、生徒会、美術部とともに青少年健全育成協議会とが連携し、イルミネーションの作成を行った。

また、美術部と青少年育成協議会が稲枝駅周辺の美化活動として、春と秋に花をプランターに植えて、水やりの活動を行った。

■ 実施に当たっての工夫

イルミネーションについては、生徒たちの発案を受けて青少年健全育成協議会が資材を提供した。放課後、両者が集まって、デザインされたものから電球をつける作業を行った。

プランターへの定植作業については、毎年春に行っていたところ、学校からの要望で秋にも植え替えを実施した。可能ならば、学校内にも花を植える活動に広がっていければという発展的な話も出てきている。



【 能登半島震災に向けたメッセージ 】

■ 事業の成果

どちらの事業も日頃話をする機会が少ない両者が、作業を通じて作業内容以外の話でもできたことが大きな成果と言える。大人といえば親や教師以外の大人と話す機会が昨今難しい状況の中で、良い取組であった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校運営協議会の場に連合自治会や青少年健全育成協議会の代表が入っていることから、学校の要望や地域の願いをすり合わせた協議、熟議を行いたいと考えている。

しかしながら、各町内では高齢化によってボランティア団体を解散せざるを得ないところが散見される。どのように進めていけばよいか地域を挙げて考える時期に来ていると思われる。

■ その他

今年は、稲枝中学校の国語科(2年生)が人権教育とも併せて、多くの方々と自分の夢、

地域の話をするという活動があった。地域へ呼びかけられて、様々な立場から生徒たちに地域の話をしたり、生徒の考える地域の未来について授業の中で話し合ったりすることができた。



【 ベゴニアの定植 】

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☒その他(特別支援学級担任)

報告書記入者(地域学校協働活動推進員)

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名: 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝東小学校	学校運営協議会 : ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 開始年度: 平成20年度 地域学校協働活動推進員等数: 1人 ボランティア登録数: 55人 ☒ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☒ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☒ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☒ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☐ 地域行事への参加 ☒ ボランティア・体験活動 ☒ 郷土学習 ☐ その他[]			

■ 事業を考案する主体

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・本校の学校運営方針を基に、読書に親しむ子どもの育成、環境整備や自己肯定感の高まりのために大切なことについて
- ・地域の力をどう子どもたちの教育に生かすのかについて、各支援・関係団体で取り組める活動の交流

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- ・読書に親しむ子どもを育成する朝の「読み語り」・図書室の環境整備

地域の「読み語りボランティア」7名の皆さんに、木曜日朝のすこやかタイムに読み語りをしていただいた。また、子どもたちがいろいろな本を手に取りやすいように、図書室の環境整備も進めていただくことで、図書室の学習環境が充実し、子どもたちの豊かな心の育成につなげることができた。

- ・夢を実現された本校卒業生から学ぶ「教育講演会」

本校卒業生でお笑い漫才師として活躍されているイタリアン・シガー・ブルドッグのお二人をお迎えし、全校児童に『夢をかなえて』～届け！先輩からのメッセージ～と題して、体験談や在校生へのメッセージについて講演いただいた。夢を実現させるためには、好きなことを見つけること、好きなことを見つけたらそのことについてしっかりと調べること、あいさつをしっかりとすることなどを熱く語っていただき、改めて夢に向かって努力することの大切さを感じることができた。



【 朝の読み語り 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・読み語りの日と、読書活動支援員の来校日を合わせることで、図書室の環境整備を連携して進めることができた。
- ・地域人材を活用した学習や活動について、お世話になった方の所属や名前、活用した教科、内容等を記録に残し、次年度以降に活用できるようにしている。



【 「夢をかなえて」～届け！先輩からのメッセージ～ 】

■ 事業の成果

- ・「読み語りボランティア」の皆さんは、本校だけでなく校区の幼稚園や中学校にも行ってくださっているので、子どもたちも安心してお話の世界に浸ることができた。
- ・学校運営協議会のメンバーのネットワークを活用することで、学校のニーズに合わせたゲストティーチャーを紹介いただくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校として年間をとおして、どのような取組をしていくのか、またどのような人材を求めているのかを積極的に発信し、連携して教育活動を推進していく必要があると考えている。

■ その他

本校の取組について、日々の学校生活の様子と併せて稲枝東小学校ホームページにて紹介している。
<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名:稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝西小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成20年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:45人 ☒ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☒ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☐ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☒ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☐ 地域行事への参加 ☒ ボランティア・体験活動 ☒ 郷土学習 ☐ その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

単級のため、交流や体験を充実していきたい。異学年交流や稲枝の3小学校の交流、保育園との交流など、体験をととして他者とつながる力をつけてほしい。また地域をととした学習により、稲枝の良さを知ってほしい。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

毎年、地域のフラワーサポーターと高学年の子どもたちが一緒に花壇づくりに取り組んでいる。メイン花壇だけでなく、サブ花壇や中庭、昇降口など四季折々の花に囲まれている。花の植え替えや、水やりなど、地域の方と共に活動に取り組むことができた。花の栽培活動をととして、命の大切さや、思いやりの心を育むことにつながった。

各学年の学習内容に応じて、地域の方々から話を聞いたり一緒に体験したりする学習活動を行った。低学年では地域の神社や商店に出かけて話を聞いたり、見学をしたりした。中学年では保護者にグストティーチャーとして来校いただき、木を使ったものづくりや楽器を使った学習をした。高学年では近所の田んぼで田植え体験やニゴロブナの放流体験を行った。



【メイン花壇づくり】

■ 実施に当たっての工夫

フラワーサポーターとの花壇作りでは、地域学校協働活動推進員と事前に年間のおよその活動計画を共有することで、見通しをもって取り組むことができた。夏休みの花壇の水やりボランティアを、地域の方や保護者に募集し、たくさんの方に参加していただくことができた。また委員会活動の時間にフラワーボランティアさんと一緒に活動し、子どもが始めの言葉や感謝の気持ちを伝えることで地域とつながることができた。

各学年の体験学習では、事前に子どもや担任の思いを地域学校協働活動推進員に伝えることで、ニーズに応じたサポートをしていただくことができた。



【はえみ発見！町探検】

■ 事業の成果

フラワーサポーターと一緒に種まきや植え替えなど花壇作りに取り組むことで、地域や学校での出来事について作業をしながら、自然と交流する場面が見られた。また、学校の花壇は地域のみんなにとっても大切な花壇であるという意識が高まり、今後も大切にしていきたいという伝統意識の育成にもつながった。地域学習等で話を聞いた際には、実物に触れたり、体験を交えた話を聞いたりすることができた。今と昔を比べることで、町の様子や生活の仕方、暮らしやすさなど時代によって変化してきたものや、何十年も変わらず大切にされてきている場所や思いに気づくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日程調整や前年度の内容確認、学級担任との連絡調整が難しいことがあった。今年度の活動内容、および反省点について現担任でまとめ、来年度の新担任に確実に引き継げるようにしたい。また、地域学校協働活動推進員と年度当初におよその年間の活動内容について共有することで、計画的に活動を進めていきたい。

■ その他

学校運営協議会は年間3回の会議を行った。1学期は、学校から学校経営方針の説明をし、交流した。2学期は中間学校評価をもとに、子どもたちの姿や学校のあり方についてご意見を頂いた。3学期は、今年度のまとめと来年度に向けての課題を話し合う予定である。実際の活動写真や動画などを示しながら説明することで、子どもの様子や活動内容がよく伝わり、より具体的な内容について交流することができた。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☒その他(担当教諭)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成

彦根市	活動名:稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝北小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成20年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:173人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・挨拶運動やスクールガード、学習支援等で地域の方と子どもたちが関わることでお互いに顔なじみとなり、挨拶がしっかりできている子も多い。学校からの評価では「挨拶ができていない」となっていたが、地域ではできている。
- ・地域で子どもが少ないのでたてわり活動の異学年交流が大事になってくる。
- ・学校で行っている地域との関わりのある学習は継続してもらいたい。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

・栽培活動支援

5月に、地域の方をお願いし、栽培活動で使用する学年の畑の整備をしていただいている。今年度は、支援学級、1年生、2年生が栽培するサツマイモ畑を子どもたちと一緒に整備していただいた。そのおかげで立派なサツマイモが多く収穫でき、秋に焼き芋パーティーを開くことができた。

・稲村かるたオリエンテーリング

10月に全校で、「稲村かるたオリエンテーリング」を行った。創立100周年記念に作られた「稲村かるた」に掲載されている寺院や史跡を、ボランティアの方や保護者とともに訪れ、建物を見学したり、地域の方やお寺の住職から話を聞いたりして、豊かな歴史を肌で感じ取り、ふるさと「いなむら」を誇りに思う心をさらに高めることができた。



【 サツマイモ畑の整備 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域連携担当教員をととして、ボランティアの方を探したり日程調整をしたりした。また、窓口を一本化し、日程が重ならないよう配慮した。
- ・「稲村かるたオリエンテーリング」を、地域学校協働活動推進員を中心に少人数で引率した。

■ 事業の成果

- ・子どもたちの環境整備が整い、安心して過ごすことができる。
地域のボランティアの方と関わることで、子どもたちの「身近な地域の人に教えてもらった」という意識が働き、地域への愛着も深まった。「稲枝北小学校の子どもたちのために、地域の方々がいろいろと支援をしてくださっていること」を、子どもたちに事前指導をすることで、子どもたちもこれらの取組を意識し、感謝の気持ちをもって地域の方に接している。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアの高齢化が進んでいるため、後に続いて指導して下さる方を見つけていく必要がある。新しいボランティアの方の加入を積極的にすすめ、人材確保にあたっていきたいと考える。

■ その他

本校は、地域の方から様々な支援をいただいて教育活動を進めている。学校運営協議会(コミュニティ・スクール)と地域学校協働活動の一体的推進に向けて、学校と地域でよりよい活動を今後も模索していきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者(教頭)